

# 学校における 食物アレルギー対応 校内研修事例集

石川県教育委員会



# 目次

I	食物アレルギー・アナフィラキシーの基礎知識	2
II	アレルギー対応委員会の進め方	4
	食物アレルギー対応委員会のメンバーと役割	6
	アレルギー対応事故防止のための確認	7
	日常の対応手順	8
III	校内研修の進め方	11
	シミュレーション研修のすすめ	12
	緊急時対応の役割	13
IV	校内シミュレーション研修の実際	14
	新規発症	14
	食物依存性運動誘発アナフィラキシー	18
	誤食による即時型症状	22
	事故検証用台本	23
	誤食を未然防止するための確認体制	25
	誤食(エピペン®を持っている場合)	26
	家庭科調理実習中のアナフィラキシー対応	29
	部活動中	32
	宿泊行事	35
	様式(例)記録用紙	38

## ○アレルギー反応は、異物を撃退しようとする免疫反応の一つ

- ・花粉や食物は体にとって有害ではないが、過剰に反応すると「IgE抗体」をつくり攻撃します。
- ・IgE抗体はマスト細胞にくっつき、そこに花粉や食物の成分がつくと、ヒスタミンなどの物質が出て、アレルギー症状が起こります。

## ○アレルギー性疾患

じんましん	アレルギー性鼻炎
アレルギー性結膜炎	<b>食物アレルギー</b>
アトピー性皮膚炎	気管支ぜん息



出典:文部科学省・(公財)日本学校保健会「食物アレルギーに関する基礎知識」

## ○食物アレルギーとは

- ・食物アレルギーとは、食べたり、触ったり、吸い込んだりした食物に対して、体を守るはずの免疫のシステムが、過剰に反応して起きる有害な症状をいいます。
- ・食物アレルギーには、年齢によって起こりやすい特徴的なタイプがあります。
- ・最近の調査では、食物アレルギーの有病率は増加傾向にあります。

## ○食物アレルギーのタイプ

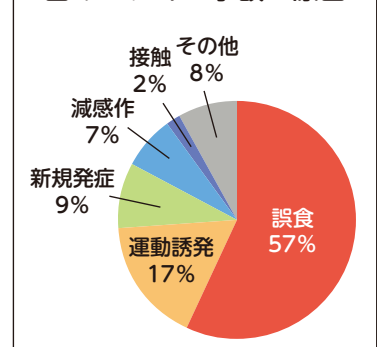
タイプ	頻度の高い年齢	頻度の高い食物	耐性の獲得(治る可能性)	アナフィラキシーの危険性
即時型症状 (じんましん、 アナフィラキシーなど)	乳児期～ 成人期	年齢により異なる 乳児～幼児 鶏卵、牛乳、小麦、そば、魚類、 ピーナッツなど 学童～成人 甲殻類、魚類、小麦、果物類、 そば、ピーナッツなど	鶏卵、牛乳、 小麦、大豆など は高い その他は低い	高い
特殊型 食物依存性 運動誘発 アナフィラキシー	幼児期～ 成人期	小麦、エビ、カニ、など	低い	とても高い
口腔アレルギー 症候群	学童期～ 成人期	果物、野菜など	低い	低い

## ○事故の現状

平成28年度、石川県教育委員会に報告された学校における食物アレルギー対応における事故は54件でした。その内、救急搬送されたケースが11件と約2割を占めています。

また、事故の原因をしてみると、誤食が約6割を占めていました(図)。これらの事故を検証するとほとんどが防げると考えられます。また、新規発症事例も約1割発生しています。対象児童生徒がいらない学校でも着実に校内研修を実施し、全教職員がアレルギーの基礎知識を身に付ける必要があります。本書が、アレルギー対応の体制確立、研修の充実に貢献できることを期待します。

図 アレルギー事故の原因



○即時型アレルギーの症状

1 皮膚の症状

かゆみ、  
じんましん、  
赤み(紅斑)

2 目の症状

結膜の充血、  
かゆみ、  
まぶたの腫れ

3 口・のどの症状

口・のどの中の違和感、イガイガ感、  
唇・舌の腫れ

4 鼻の症状

くしゃみ、  
鼻汁、  
鼻づまり

5 呼吸器の症状 ★

声がかすれる(嗄声)、  
犬が吠えるような咳、  
のどがしめつけられる感じ、  
息が苦しい(呼吸困難)、  
ゼーゼー・ヒューヒューする(ぜん鳴)、  
低酸素血症

6 消化器の症状 ★

腹痛、  
吐き気、  
嘔吐、  
下痢

7 循環器の症状 ★

脈が速い(頻脈)・  
触れにくい・不規則、  
手足が冷たい、  
唇や爪が青白い、  
血圧低下

8 神経の症状 ★

元気がない、ぐったり、  
意識もうろう、  
不機嫌、失禁



★印のついた症状の場合、エピペン®の使用や救急搬送などの迅速な対応が必要になることがあります。

○思わぬところにアナフィラキシーのリスク



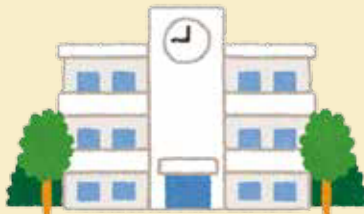
家庭科・理科の授業  
(調理や観察)



給食



遠足(おかし交換など)



登下校



体育・部活動・休み時間  
(運動)



合宿・修学旅行



## Ⅱ

# アレルギー対応委員会の進め方

食物アレルギーがある子どもの在籍の有無にかかわらず、食物アレルギー対応委員会を設置し、組織的、計画的に食物アレルギー対応を行うことが必要です。

食物アレルギー対応委員会には、

- ① アナフィラキシーの発症予防対策
- ② アナフィラキシー発症時の早期発見、早期対応
- ③ 児童・保護者へのアナフィラキシーの啓発活動
- ④ 食物アレルギーがある子ども、クラスメイトへの配慮
- ⑤ 全教職員への研修、基本知識等の啓発が求められます。

### ○アレルギー対応委員会年間計画(例)

時期	委員会での議題や内容
前年度 1～3月	食物アレルギー対応希望調査の実施 保護者面談 学校生活管理指導表の提出依頼 ※新年度に間に合わせるためには1月には保護者に病院受診を依頼しましょう。 3月の病院受診では、4月の給食開始に間に合わない場合があります。
年度末	対応児童生徒の把握 個別の取組プラン作成
4月	対応委員会のメンバー決定 メンバーの役割確認 対応児童生徒の一覧作成・教職員への周知 アレルギー対応の一連の流れを確認・教職員への周知 ・献立作成 ・献立確認(保護者・本人・学級担任・アレルギー担当) ・給食実施日の朝 ・給食配膳前 ・給食喫食前 ・緊急対応時
5月	校内研修の企画および実施
6月	校内研修の評価
7月	ヒヤリハット報告または事故報告と分析
8月	対応状況の評価と見直し
10月	(小学校)就学時健康診断:アレルギー対応希望調査 保護者面談
12月	次年度に向けて「学校生活管理指導表」の提出依頼 ヒヤリハット報告または事故報告と分析
2月	今年度の対応状況の評価・次年度の計画作成



学校によっては、食物アレルギー対応の児童生徒が在籍しないまたは学校給食を実施していない等の理由から、全教職員の危機意識の向上が難しい場合があるかもしれません。しかし、アナフィラキシーは、いつ、どこで、発症するかは予測できません。

新規発症が起こった際に、全教職員の誰もが適切な判断・行動をとれるよう、毎年必ず校内研修を行うことが重要です。そのための準備や評価を含めると年間2～3回はアレルギー対応委員会の開催が必要となると考えられます。

## ○学校生活管理指導表に基づく対応の確認

### 学校生活上の留意点

- ・安全を第一に考えた給食提供を行います。
- ・食物アレルギーは学校で初発することも珍しくありません。
- ・食物アレルギーは給食現場・教室内だけで起こるとは限りません。

〔例〕小 学 校:理科室(大豆の観察)、校外(マラソン大会の練習)

中 学 校:家庭室(卵の調理実習)、体育館(昼休みのバスケットボール)

高等学校:文化祭(小麦粉を使った模擬店)




学校生活上の留意点
<b>A. 給食</b> 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定
<b>B. 食物・食材を扱う授業・活動</b> 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定
<b>C. 運動(体育・部活動等)</b> 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定
<b>D. 宿泊を伴う校外活動</b> 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定
<b>E. その他の配慮・管理事項(自由記載)</b>

### 1. 管理不要

- ・学校としての特別な配慮は不要。

### 2. 保護者と相談し決定

- ・具体的な場面を想定して既往などの情報を収集する。
- ・対応ガイドライン・指導表に沿った範囲に止める。

<b>A. 給食</b> ◆学校給食での対応の基本方針 ・学校給食の意義 「食の大切さ」を理解し、「食事の楽しさ」を知るための教材 食物アレルギーの児童生徒も給食を楽しめることをめざす。 ・保護者の要望のみの対応は行わない。	<b>B. 食物・食材を扱う授業・活動</b> ◆微量の摂取・接触により発症する児童生徒に対する配慮 ・「食べる」だけでなく、「吸い込む」「触れる」ことも発症の原因となる。 
<b>C. 運動(体育・部活動など)</b> ◆運動に関連したアレルギー 1 運動誘発アナフィラキシー ○運動そのものの制限が必要。 2 食物依存性運動誘発アナフィラキシー ○原因となる食物を摂取したら、4時間(少なくとも2時間)は運動することを控える。 ○運動をすることがわかっていたら、原因となる食物を摂取しないこと。	<b>D. 宿泊を伴う校外活動</b> ◆食事の配慮 ・事前の宿泊先への依頼と提供する食事の調整 ・保護者、宿泊先を交えて情報交換 ・宿泊先の食物アレルギー受け入れ実績の確認 ◆緊急時の受診先の確認と確保 ・搬送する医療機関を調査・確認 ・場合によって主治医からの紹介状を用意 ・「エピペン®」など救急治療薬の使用法について、事前に、保護者・本人・主治医・学校医と相談
<b>E. その他</b> 学校に対して、該当児童生徒の注意点を記載してもらう欄	

## 食物アレルギー対応委員会のメンバーと役割

食物アレルギー対応には、多くの人に関わります。担当者に任せきりでなく、誰が、どの役割を担っているかを情報共有し、対応が抜け落ちることのないようにすることが重要となります。

学校の規模によっては、1人で多くの役割を担う必要があるかと思いますが、必ず複数で確認できるような体制づくりが必要です。下記の例を参考に、各校で有効な役割分担を行いましょう。

	管理職	保健主事	栄養教諭	養護教諭	学級担任	教職員	学校医
対応申請の確認							
①管理指導表、取組プランの配布・回収			※	○	※		
個別面談							
①日程調整				○	○		
②個別面談	○		○	○	○		
対応実施の決定							
①対応委員会の開催と対応内容決定 「取組プラン」作成	○	※	○	○	○		※
②校内への情報周知 対応児童生徒一覧の作成	○	※	○	○			
③保護者への通知			※	○	※		
④教育委員会への報告	○		※	※			
対応の開始							
①献立表の作成・確認	※		○	※			
②献立表の配布・保護者との確認			○	※	※		
③調理・盛付・確認			○				
④受渡し・配膳			※		○		
⑤喫食前の確認	○	※	※	※	○	※	
⑥給食指導・健康観察	○	※	○		○		
対応の評価							
①対応の評価・改善	○	○	○	○	○	○	※

○:役割がある ※:場合によっては役割がある





## アレルギー対応事故防止のための確認

アレルギー対応での事故を防止するためには、基本的な校内体制を確立する必要があります。

人任せにするのではなく、いつ、だれが、どのように行動するかを予め決め、役割を明確にし、重要な役割は一人に任せず、抜けのないようダブルチェックやサポート体制をとることが望まれます。

下記の表を活用し、これらの項目について確認しているか、担当欄には担当名を記載し、役割を明確にしましょう。

### ○アレルギー対応事故防止確認表

項目	内容	確認	担当
献立作成	原因食物がわかりやすい料理名にしている。		
	同じ日に複数の原因食物を使用していない。		
	原因食物を判別できる形で提供している。		
食材の発注	原因食物を含まない物資であることを記載、発注している。		
	原材料配合表を取り寄せ、原因食物を確認している。		
食材の検品	納品された物資が発注した(原因食物除去の)物資であるか検収している。		
アレルギー対応食の調理	原因食物が混入しないようアレルギー対応食専用スペースで調理している。		
	アレルギー対応食専用の調理器具を使用している。		
	アレルギー対応食専任の調理員がいる。		
詳細献立表の作成・配布	原因食物に記載もれがないこと等を複数で確認し、配布している。		
食物アレルギー対応表・もりつけ表(保護者提出分)の確認	保護者から提出された食物アレルギー対応表等で原因食物がもれなくチェックされているか事前に、複数で確認している。		
朝:アレルギー対応の有無の確認 巡回担当者の確認	アレルギー対応の有無を当日の朝、確認している。		
	・予定黒板や週案に記載している。		
	・誰がどのクラスに巡回するか確認している。		
持参弁当の確認	弁当対応の有無について、事前に確認している。		
	弁当を忘れていないか朝のうちに確認している。		
給食配膳前の確認	配膳前に当日の対応について、担任、担当、本人で確認している。(当日の料理、除去の有無等)		
	アレルギー対応の児童生徒は誤配がないよう最初に配膳している。		
給食当番への指導	アレルギー児童生徒の有無や原因食物、当日の対応について指導している。		
喫食前の確認	「いただきます」の前に巡回担当者が除去できているか担任、本人と確認している。		

## 日常の対応手順

給食提供には、食材の提供業者、調理場の職員、栄養教諭等、学校関係者等たくさんの人が関わっています。自分たちの見える範囲で、万全な体制を整えているつもりでも、見えないところで、アレルギーが混入してしまう可能性があることを忘れてはいけません。

自分の学校の体制はどのようになっているか、情報共有が抜けやすいところはどこか連携体制を確実なものにするために基本の手順について確認しましょう。また、万が一のことが起こることも念頭に置き、お互いに抜けのないよう確認しあえる体制を構築しましょう。

### ○ 毎月の対応手順

対応内容	管理職場長	養護教諭	栄養教諭等	調理員	学級担任	保護者
① 献立作成	確認		作成			
② 調理手順表作成			作成	確認		
③ 原材料の発注および成分表の取り寄せ			確認			
④ 詳細献立表・もりつけ表の作成	確認	確認	作成	確認		
⑤ 保護者の確認						確認
⑥ 保護者確認を受け、対応を確認		確認	確認		確認	
⑦ 情報共有	情報共有					

保護者に渡す前に複数で確認する

保護者から提出されたもりつけ表を給食提供の前に複数で確認する。疑問点がある場合は必ず確認する。

## ○毎日の対応手順

対応内容	管理職場長	養護教諭	栄養教諭等	調理員	学級担任	本人保護者
○前日までに行う対応						
①作業工程表の作成	確認		作成・確認			
②動線図の作成	確認		作成・確認			
③対応カードの作成	確認		作成・確認			
④調理員と打合せ			情報共有			
○当日の対応						
⑤対応内容の確認(当日の対応児童生徒および原因食品の確認)	確認					
⑥原材料の確認			確認			
⑦弁当及び代替食の確認			作成または確認		確認	作成または確認
⑧調理			調理			
⑨保存食			保存			
⑩調理の確認	確認		確認			
⑪配食の確認			確認			
⑫対応カードの確認					受取確認	
⑬配送確認			確認		確認	
⑭教室での配膳前の確認					確認	確認
⑮教室での喫食前の確認	確認	状況に応じて巡回			確認	確認
⑯「いただきます」	検食					

## ○対応児童生徒の情報共有

アレルギー対応を必要とする児童生徒については、学校全体で情報共有を確実にしておくことが重要です。特に、日常的に給食や食品を扱う活動、または、体育・部活動の担当者については、個々の詳しい症状や対応について十分理解しておくことが大切です。

また、日常的に対応している教職員が対応できない場合は、補欠に当たる教職員に十分な引き継ぎを行う必要があります。

## ○引き継ぎで重要なポイント



原因、食物 \_\_\_\_\_

日常的な対応 \_\_\_\_\_

主な症状 \_\_\_\_\_

緊急時の連絡先 \_\_\_\_\_

顔と名前が一致すること

## ○食物アレルギー対応児童・生徒一覧(例)

年組	氏名	アレルギータイプ	原因食物	主な症状	エピペン®	内服薬	対応	留意点
1-1		アナフィラキシー	卵	じんましん 咳	○	○	給食:詳細献立、 除去食  パン等二次製品 も除去対応一部 弁当	食材を扱う活動は 事前に保護者に相談 エピペン®は職員室、 ランドセルで保管
2-2		食物依存性 運動誘発 アナフィラキシー	牛乳・ 乳製品	じんましん 腹痛、咳	○	○	給食:詳細献立、 除去食	減感作療法中 登校2時間前に 牛乳を飲用 登校後の健康観察 を実施
4-3		食物依存性 運動誘発 アナフィラキシー	甲殻類 魚類	全身 じんましん、 咳、 呼吸困難、 嘔吐	○	○	給食:詳細献立、 除去食  運動制限あり	原因食物を食べた 際は、最低2時間は 運動しない
5-2		口腔アレルギー 症候群	長いも	口・ 唇の腫れ、 のどの 違和感		○	給食:詳細献立、 除去食	

## ○子どもの安全を守るための校内研修

## 目的

児童生徒が安全・安心な学校生活を過ごすため、全教職員が児童生徒の生命・健康を守る能力を備えておく必要があります。

## ○子どもの生命・健康・安全を守るために必要な能力

- ・最初の情報から子どもの危機を予測する力
- ・予測したことを念頭に、さらに情報を収集する力
- ・食物アレルギーの知識に基づいて情報の分析とアセスメント(対応について判断)できる力
- ・アセスメントに基づいて行動を判断し、実行する力

## 学校の課題

現在の学校における食物アレルギー対応の課題がどこにあるかを明確にして、研修を行いましょう。目的は、あくまでも児童生徒の安全を守るため、食物アレルギー対応が適切かつ迅速に行えるようになることです。

できないことに目を向けるのではなく、どこに改善ポイントがあるか、どのような体制や方法が合っているのかを全教職員で協議・情報共有し、同じ方向性で対応を行うことが重要となります。

## 研修のポイント

研修を行う際には、教職員のニーズがどこにあるのか、知識を学びたいのか、対応を学びたいのか、緊急時の対応に不安があるのか等をリサーチし、対象やポイントを明確にして実施することが望めます。

また、校内研修を行う際には、十分事前準備を行い、指導助言が必要な場合は、アレルギー専門医や学校医、教育委員会担当者等と相談して進めるとよいでしょう。

## 研修の評価

校内研修実施後は、教職員にアンケートを取るなどして評価を行いましょう。

## 研修の3STEP

<p>①机上研修 台本の読み合わせを行い、イメージを掴んで課題を協議します。</p>	<p>②模擬研修 会議室等で簡単にシミュレーションを実施します。代表者が寸劇を行う方法もあります。</p>	<p>③実地研修 本番さながらに、実際の教室等でシミュレーションを行います。想定外をアドリブで訓練する方法もあります。</p>
--	---	---



## シミュレーション研修のすすめ

### ○シミュレーション研修の重要性

アレルギーをもつ児童生徒の在籍の有無にかかわらず校内研修を実施することが義務づけられています。実際に、対象児童生徒がいなくてイメージがわきにくく、教職員の意識も高まらないのが現状かと推察されます。

しかし、毎年のように新規発症事例の事故報告があります。校内研修で教職員がアレルギー対応に対する危機意識を高めることは、大変重要です。その際に、場面を想定してシミュレーション(模擬)訓練を行うことで、実際には目にしたことがないアナフィラキシーの立ち会い経験を補うことが可能となります。

アナフィラキシー症状がでたときの対応を、症状の発見、初期対応、救急搬送、救命処置までの一連の流れで行うことが効果的です。

### ○シミュレーション研修の役割分担

研修では、アレルギー児童生徒役、まわりの子ども役、学級担任役、養護教諭役、栄養教諭役、校長・教頭役などがあります。緊急時での役割が誰でも行えるよう、役割を交代しつつ、何度も研修していくとよいでしょう。また、研修の際には、関係職員だけが行うのではなく、いつどこで事故が起こるかわからないことを念頭に置き、全教職員の意識が高まることを目的に実施することが重要となります。

### ○シミュレーション研修の場所

研修を行う場所は、実際の教室や体育館など、アナフィラキシーが起こる可能性がある場所を選定し行うとよいでしょう。緊急時に発見から応援の教員が駆けつけるまでには、どのくらいの時間がかかるかなど体験していくことで、緊急時に効率的な行動がとれるための訓練となります。

### ○シミュレーション研修の検証

シミュレーション研修後は、ビデオ録画したり観察係を複数つけたりするなど評価し、実際の緊急時対応の改善につなげます。



## 緊急時対応の役割

### ○学校内での役割

役割	行動
管理・監督者(校長等)	現場に到着次第、リーダーとなる それぞれの役割の確認及び指示 エピペン®の使用または介助 心肺蘇生やAEDの使用
発見者「観察」	子どもから離れず観察 助けを呼び、人を集める(大声または、他の子供に呼びに行かせる) 教員・職員A、Bに「準備」「連絡」を依頼 リーダーが来るまでは、リーダーとして判断・指示
教員・職員A「準備」	食物アレルギー緊急時対応マニュアルを持ってくる エピペン®の準備 AEDの準備 内服薬の準備 エピペン®の使用または介助 心肺蘇生やAEDの使用
教員・職員B「連絡」	救急車を要請する(119番通報) 管理者を呼ぶ 保護者へ連絡 さらに人を集める(校内放送)
教員・職員C「記録」	観察を開始した時刻を記録 エピペン®を使用した時刻を記録 内服薬を飲んだ時刻を記録 5分ごとに症状を記録
教員・職員D～F 「その他」	他の子どもへの対応 救急車の誘導 エピペン®の使用または介助 心肺蘇生やAEDの使用

○上記の役割があることを教職員が理解し、誰でも、どの役割でも行えるようシミュレーション研修を行うことが望まれます。

※学校における食物アレルギー対応指針-石川県版-P23参照

## 新規発症

想定

1

## シミュレーション研修プラン

1 テーマ	新規発症時の対応 119番通報
2 対象	全教職員(1グループ12人)
3 場面設定	給食時間
4 シミュレーション時間	15分/回
5 ふりかえり時間	20分
6 研修場所	会議室
7 目標	①緊急対応が必要なアナフィラキシー症状について理解する。 ②119番通報の方法と伝達すべき、必要な情報が何か理解する。 ③緊急時対応の各係の役割について理解する。
8 対象児童の情報	氏名:児童A 性別:男子 学年:小学校3年 アレルギー既往:なし 保健調査:特記事項なし

## 9 シミュレーション研修の設定

- 12:45 給食を食べていたAさんに、急に両腕に強いかゆみ、じんましんが出現した。  
その後、保健室に担任と来室する。
- 13:00 両腕のかゆみ、じんましん、のどの違和感を訴える。
- 13:15 顔の紅潮、のどがつまった感じがあり、咳が出始める。
- 13:20 じんましんが首、腹部にも広がり、咳がひどくなる。

## ○新規発症時の注意点

これまでにアレルギーの既往のない児童生徒の場合に特に注意が必要となります。

### Point

「いつもの様子と異なる、様子がおかしい」

アナフィラキシー対応は、教員が子どもの体調の変化に気づくことから始まります。

- ・アレルギーの既往がない場合でも突然、アナフィラキシーを発症することはあります。
- ・「もう少し様子を見よう」など、子どもの訴えを後回しにするのは止めましょう。
- ・判断に迷う場合は、応援を呼びましょう。
- ・子どもの生命を守ることが優先です。子どもを一人でトイレや保健室に行かせず、**必ず大人が付き添います。**

### 判断が難しいケース

- ・気温が高く熱中症の可能性もある
- ・感染性胃腸炎の流行時期
- ・喘息、花粉症のある児童生徒

アレルギー症状かその他の病気か早期に見極める必要があります。

熱中症や感染性胃腸炎として、休養させていて症状が急速に進行すると危険な場合があります。

**5分おき**の経過観察を怠らないようにしましょう。

必ずではありませんが、アナフィラキシーの場合、発疹や眼の充血、鼻水、咳等、熱中症や感染性胃腸炎では見られない症状があります。注意深く観察することが大切です。

## ○症状チェックシート

		グレード1(軽症)	グレード2(中等症)	グレード3(重症)
皮膚・粘膜 症状	紅斑・じんましん	部分的	全身性	全身性
	かゆみ	軽い	強い	強い
	口唇、眼瞼腫脹	部分的	顔全体の腫れ	顔全体の腫れ
消化器症状	口腔内違和感	□・のどのかゆみ	咽頭痛	
	腹痛	弱い	強い	持続する強い腹痛
	嘔吐・下痢	吐き気、単発の嘔吐・下痢	複数回の嘔吐・下痢	繰り返す嘔吐、便失禁
呼吸器症状	咳・鼻水 鼻閉、くしゃみ	間欠的な咳、鼻水	断続的な咳	持続する強い咳き込み、 犬吠様の咳
	喘鳴・呼吸困難		聴診上の喘鳴 軽い息苦しさ	明らかな喘鳴、呼吸困難
循環器症状	脈拍、血圧		頻脈、血圧軽度低下、蒼白	不整脈、血圧低下
神経症状	意識状態	元気がない	眠気、軽度頭痛	ぐったり、失禁、意識消失

## ◆台本

配役	A：アレルギー児童	B：友達	C：学級担任(連絡係)	D：養護教諭(観察・準備係)
	E：校長(リーダー)	F：副担任(記録係)	G・H：子どもの対応係	I・J：AED準備
	k：救急車誘導	L：消防		

## ○12:30 給食

友達B	「合掌。いただきます。」 「今日の給食はミルクロール、えびとブロッコリーのクリームスパゲティ、かぼちゃコロッケ、キャベツスープです。」
アレルギー児童A	「おいしそう。エビは大好きだからあとからにして、横のブロッコリーから食べよう。(もぐもぐする)」 「エビの横にあったブロッコリーを食べたら、腕がかゆくなってきた。」
友達B	「どうしたの?」(腕をまくるのを見て)「真っ赤になってる。」 「保健室に行く?」 「先生、Aさんの腕が赤くなってます。」
学級担任C	「Aさん、保健室に行きましょう。」(一緒に保健室に行く)

## ○12:50 保健室

学級担任C	「先生、Aさんが給食を食べて、じんましんができました。」
養護教諭D	「あら、Aさん、アレルギーあったっけ?」「何食べたの。」
児童A	「アレルギーはありません。」「パンとエビの隣のブロッコリーを二つ食べました。」(ポリポリ腕をかく)
養護教諭D	「まあ、ベッドに横になろうか。」
児童A	(ベッドに横になる)
養護教諭D	「本当にかゆそうね。ちょっと冷やしてみようか。」(氷を持って来て渡す) 「他はどう?口とかのどとかおなかは大丈夫?ちょっと血圧と脈、熱もみようね。」

○13:00 体温計を渡す、血圧、SpO<sub>2</sub>を測る

児童A	「腕がすごくかゆいです。のどは少しおかしいかも。」
養護教諭D	「C先生、校長先生や他の先生方にAさんがアナフィラキシーみたいなので、応援をお願いしてください。」
学級担任C	「はい、わかりました。」(職員室に向かう)
養護教諭D	(血圧100/66mmHg 脈110回/分 SpO <sub>2</sub> 97% 体温36.5℃メモをする) (保健調査表を取り出し、既往等を確認しながら) 「今まで、何か食べた後に具合が悪くなったことある?」
児童A	「ないです。」(腕やおなかをかきながら)(軽く咳をする)

## ○13:10 学級担任C、副担任F、校長Eが保健室に来る

学級担任C	「Aさん大丈夫ですか?」
児童A	「大丈夫です。」(腕やおなかをかきながら)(軽く咳をする)
学級担任C	「アナフィラキシーとのことだったので、校長先生と副担任にも来てもらいました。」
校長E	「F先生記録をお願いします。」 「D先生どんな様子ですか。」
養護教諭D	「Aさんはこれまでにアレルギーの既往はありません。今日の給食を食べていて急に両腕がかゆくなりじんましんがでたそうです。血圧は100/66mmHgで低め、脈は110回/分で速くなっています。先ほどから咳が出始めていますので、アナフィラキシーが疑われます。」



## ○13:15 保健室

養護教諭D	「もう一度、血圧と脈を測ろうね。」 「血圧97/60mmHg 脈113回/分 SpO <sub>2</sub> 96%です。F先生記録お願いします。」
児童A	「(咳をする)コン、コン、先生、のどがイガイガしてきた…。(しゃべりにくそうに)」
養護教諭D	「校長先生、血圧が少し下がって来ています。 進行する前に救急搬送したほうがよいかもしれません。」
校長E	「そうですね。C先生、救急車の要請と、保護者連絡をお願いします。 それから応援の先生が必要ですね。G、H、I、J、K先生を呼んでください。」
養護教諭D	「Aさん、さっきよりひどくなってきたみたいだから、念のため救急車で病院に行きましょう。おうちの方には担任の先生から連絡してもらうからね。」
児童A	「(うなずく)(首筋をかきながら犬が吠えるような咳をする)オホン、オホン、オホン。」
学級担任C	

## ○13:20 職員室に行き、G、H、I、J、K先生に保健室の応援を頼む

学級担任C	(電話をかける)「119。」
消防L	「こちら119番です。火事ですか。救急ですか。」
学級担任C	「救急です。」
消防L	「住所はどこですか?」
学級担任C	「〇〇市(町)〇〇町〇丁目〇〇番地 □□学校です。」
消防L	「どうしましたか?」
学級担任C	「〇歳の男の子が給食の後、アナフィラキシーを起こしました。 じんましんと咳が出ています。」
消防L	「あなたの名前と連絡先を教えてください。」
学級担任C	「私は□□△△です。電話番号は…です。」
消防L	「すぐ、向います。学校の正面に誘導の待機をお願いします。」
学級担任C	(保護者に今の状況を伝え、救急車を要請した旨、病院の搬送先が決まり次第連絡することを伝える。連絡が終わり次第、保健室に戻る)

## 保健室にG、H、I、J、K先生が行く

校長E	G先生、H先生3年〇組の子どもの対応と保健室の子どもの対応をお願いします。 (G:当該クラスに向かう。H:保健室に来ている子どもを誘導する) 「I先生、J先生念のためAEDの準備をお願いします。 K先生救急車の誘導をお願いします。」
学級担任C	「校長先生、救急車はすぐ来てくれるそうです。」 「おうちの方に連絡しました。すぐ病院に来られるそうです。」 「Aさん、すぐおうちのひとも来るからね。」「救急車で病院行こうね。」

## ○13:27 救急車到着

教員K	(救急隊に向い)「こちらです。」(保健室へ誘導する)
消防L	「救急隊です。お子さんの状況を教えてください。」
養護教諭D	(記録を基に状況を報告する。救急車に同乗する)

# 食物依存性運動誘発アナフィラキシー

想定  
2

## シミュレーション研修プラン

1 テーマ	食物依存性運動誘発アナフィラキシーの対応 意識不明 AEDの使用
2 対象	全教職員(1グループ12人)
3 場面設定	5限の授業中
4 シミュレーション時間	20分/回
5 ふりかえり時間	20分
6 研修場所	会議室
7 目標	①アナフィラキシーショック症状とショック時の 対応について理解する。 ②心肺蘇生法とAEDの使用方法を習得する。
8 対象生徒の情報	氏名:生徒A 性別:男子 学年:中学校2年 アレルギー既往:幼少時のみ(中学校では把握していなかった) 保健調査:特記事項なし

### 9 シミュレーション研修の設定

- 13:00 給食を全て食べ終え、昼休みに運動場でサッカーをして遊んだ。
- 13:40 5限の始めに教室の座席で苦しそうに机にうつ伏せていた。  
教科担任が気づき、保健室まで一緒に移動しようとした。
- 13:45 鼻づまり、咳込み、声がしゃがれていた。途中で気分が悪いと  
洗面所でしゃがみこんだ。
- 13:46 近くの教員に応援を要請。
- 13:50 担架で保健室に搬送した。
- 13:55 救急車を要請し、保護者に連絡した。
- 14:00 Aさんが気分が悪いと起き上がり、3度嘔吐し、ぐったりする。

## ○アクションカードの研修での使い方

実際のアレルギー事故では、児童生徒がどのような症状を起こすか、その後どう変化するか等はわかりません。ある程度、アレルギー対応について教職員の理解が進んだら、事前に想定を知らせず、アクションカードを用いて、迅速に適切な行動がとれるか、研修します。

アクションカード(例)

<b>アレルギーの児童生徒:A</b> ①教室の机でうつ伏せる。 ②教員に質問されたら、苦しそうに「しんどい」しゃがれた声で答える。 ③鼻がつまり、息が苦しい。咳込む。 ④起き上がり、3度嘔吐し、意識がなくなる。	<b>友達:B</b> ①サッカーを一緒にしていた。 ②サッカーの途中から咳をしていたことを教員に報告する。 ③教員に指示され、職員室に応援を呼びに行く。
<b>観察係(教科担任):C</b> ①第一発見者「観察」 ②Aが机に伏せていることに気づく。 ③Aに肩を貸し、保健室に連れて行こうとする。 ④授業中のため応援の教員を生徒に指示する。 ⑤Aが動けなくなり教員に応援を要請する。 ⑥教職員DEに「準備」「連絡」を依頼。	<b>準備係(養護教諭):D</b> ①マニュアルの準備 ②AEDを依頼 ③心肺蘇生・AEDの使用
<b>連絡係(学年主任):E</b> ①救急車を要請 ②リーダーを呼ぶ ③保護者へ連絡 ④さらに人を集める	<b>リーダー(管理職):F</b> ①それぞれの役割を決め指示する ②心肺蘇生・AED使用
<b>記録係:G</b> ①観察開始・時刻を記録 ②5分毎に症状・経過を観察記録	<b>AED準備:H</b> ①AEDを取りに行く ②心肺蘇生・AED介助
<b>他の子どもの対応係:I</b> ①他の子どもへの対応 ②心肺蘇生・AED介助	<b>補助係:J</b> ①他の子どもへの対応 ②心肺蘇生・AED介助
<b>救急車の誘導係:K</b> ①他の子どもへの対応 ②救急車の誘導	<b>救急隊係:L</b> ①救急隊として学校にかけつける

## ○食物依存性運動誘発アナフィラキシーの注意点

食後4時間以内はアナフィラキシーが起こる可能性がある。  
 意識を消失する可能性がある。  
 原因食物を食べた場合は運動しないことを原則とする。

## ◆台本

配役	A：アレルギー生徒 E：学年主任(連絡係) k：救急車誘導	B：友達 F：校長(リーダー) L：消防	C：教科担任(観察係) G：記録係	D：養護教諭(準備係) H・I・J：AED準備
----	-------------------------------------	----------------------------	----------------------	----------------------------

## 13:00 昼休み開始のチャイム

アレルギー生徒A 「給食うまかった～。サッカー行こう。」

友達B 「行こう、行こう！」

## 13:40 5限目の開始

生徒A (教室の座席で伏せている)

教科担任C (教室に入ってくる)

友達B 「起立」「礼」(一同礼をする)「着席」

教科担任C (教室を見回し、Aが伏せていることに気づく)

「Aくん、具合悪いのか？」(Aの座席に近寄る)

(そばに行き様子をみる)「どうした。」

生徒A 「ん、ん、(声がかすれる)コホ、コホン、先生、しんどい。」「やばい。」

友達B 「昼休み一緒にサッカーしていたんですが、その時から咳をしていました。」

教科担任C 「そうか、A立てるか？保健室に行けるか？」「一緒に行こう。」

「みんなは、今日のところの教科書を読んで待っていてください。」

「Bさん、職員室でE先生に報告して、教室にきてもらって。」

生徒A (やっと立つ)

教科担任C (Aに肩を貸し、一緒に歩き始める)

「今まで、こんな急に具合が悪くなったことはある？アレルギーかな？」

生徒A 「コホ、コホ、(咳をしながら)な、ないです。」

(しばらく歩き)「気持ち悪い」としゃがみこむ。

教科担任C 「おい、大丈夫か？」「(大声で)誰か、来てください。」

学年主任E (Bくんから報告を受け教室に向かう途中にAとCを見つける)

「Aくん大丈夫か？」

教科担任C 「E先生、昼休みサッカーをしている時から具合が悪かったようで、咳が出ています。丁度、気持ち悪いと言ってしゃがみこんで、歩けないようなんです。」

学年主任E 「顔色が随分悪いな、すぐ担架を持ってきてもらおう。」

(職員室に携帯で電話する)「Eです。2年1組のAくんが1年教室前の廊下で歩けなくなりました。至急担架を持ってきてください。けがではなく、具合が悪いようです。顔色がすごく悪くて、咳もしています。ここにはC先生もいます。」

校長F教員G (担架を持ってかけつける)

校長F 「Aくん、大丈夫か？」「すぐに保健室に運ぼう。」

生徒A (咳がひどくなる)「ケ、ケン、ケ、ケン、ケン、(声をつまらせ)ス、スママセン。」

教科担任C 「担架に横になろう」

C、E、F、G (4人で保健室まで運ぶ)

## 13:50 保健室に到着

教科担任C 「D先生、Aくんの具合が急に悪くなりました。サッカーをしていたときから、咳が出ていたようですが、私が教室に行ったときには机に伏せていました。」

「ベッドに移しましょう。」「Aくん、保健室に来たよ。」「ベッドに移ろうね。」

養護教諭D 「頭の方からC先生、E先生、F先生、校長先生お願いします。

Aさんの体の下に手を入れてください。

私が声をかけ、担架を扱きますから、1、2、3で移しましょう。いいですか。1、2、3」

生徒A 「ケホ、ケホ、(かれた声で)せ、先生、気持ち悪い…。」

(口を押さえながら起き上がろうとする)

教科担任 C	「さっきも廊下で気持ち悪いって言っていました。」
養護教諭 D	(起き上がろうとするのを制止しながら)「吐きそう?」(洗面器を顔の横に差し出す (背中をなでる) 「E先生、救急車の要請と保護者連絡をお願いします。 職員室からH先生I先生J先生も来てもらうよう伝えてください。」
校長 F	「G先生は記録をお願いします。」
養護教諭 D	「E先生、念のためAEDの手配をお願いします。」
教員 G	(記録用紙に今までの経過を教科担任 C から聞き取り、記録する)
<b>13:55 学年主任 E は職員室に行き、他の職員に現状を伝え、H・I・J 先生に保健室に応援を依頼する。 K 先生に救急車の誘導を依頼する。保健室に移動し、自分の携帯から119番通報をする。</b>	
学年主任 E	(119番通報をする)
消防 L	「119番、火事ですか。救急ですか。」
学年主任 E	「救急です。」
消防 L	「住所はどこですか。」
学年主任 E	「〇〇市〇〇町〇丁目〇番地 □□中学校です。」
消防 L	「どうしましたか。」
学年主任 E	「中学2年生の男子生徒が給食後サッカーをした後、具合が悪くなりました。 アナフィラキシーの可能性あります。」
消防 L	「あなたの名前と連絡先を教えてください。」
学年主任 E	「私の名前は□△〇×です。電話番号は……です。」
消防 L	「すぐ、救急車が向かいます。8分ほどで到着します。校門の方で誘導をお願いします。」
学年主任 E	「はい。」
消防 L	「患者さんの様子を詳しく教えてください。」
学年主任 E	「教室から保健室に行こうとして、歩けなくなり、担架で保健室に運びました。 咳をして、気分が悪いと言っていました。」
消防 L	「意識はありますか。」
学年主任 E	「はい。咳がひどいですが」
消防 L	「電話はこのまま切らずに、様子が変われば知らせてください。」
学年主任 E	「校長先生、消防に連絡しました。8分ほどで着くそうです。 この携帯は消防とつながっています。状況が変われば、報告してほしいそうです。 スピーカーにしております。私は固定電話から保護者に連絡します。」
<b>14:00 H・I・J 先生が AED を持って保健室に来る。</b>	
生徒 A	「ケホ、ケホ、(かれた声で)せ、先生、気持ち悪い…。」 (起き上がり洗面器に3度嘔吐し、ぐったりする)
養護教諭 D	(嘔吐物をベッドの下に置き、Aくんにティッシュをわたそうとするが 受け取らないので口元を拭く) 「Aくん、大丈夫??」(呼吸の確認をする)「校長先生呼吸が弱くなっています。」 (脈をとる)「脈が触れません。」
教員 G	(嘔吐した時間、意識障害、脈が触れにくいことを記録する)
校長 F	「D先生、AEDの準備をしてください。」「C先生、胸骨圧迫を始めてください。」
養護教諭 D	「はい」(AEDを準備する)
教科担任 C	「はい」(胸骨圧迫を開始する)
教員 G	(胸骨圧迫の開始時刻、AEDの装着時刻を記録する)
校長 F	「C先生交代しましょう。」(胸骨圧迫を交代する)
<b>14:03 救急車が到着する。</b>	
消防 L	「救急隊です。お子さんの状況を教えてください。」



## 誤食による即時型症状

想定  
3

### シミュレーション研修プラン

1 テーマ	誤食による症状誘発時の対応 給食時の確認
2 対象	全教職員(1グループ9人)
3 場面設定	給食時間
4 シミュレーション時間	15分/回
5 ふりかえり時間	20分
6 研修場所	保健室
7 目標	①誤食を未然に防ぐための確認体制を見直す。 ②緊急時の対応について理解する。
8 対象児童の情報	氏名:児童A 性別:女子 学年:小学校6年 アレルギー:魚アレルギーにてレベル3(除去食)対応 保健調査:特記事項なし

#### 9 シミュレーション研修の設定

魚アレルギーの児童生徒 内服薬あり  
調理場から来た除去食にはメモが貼ってあった。  
給食当番が準備をしている時にそのメモがはがれた。  
担任は忙しく、別のことを考えながら、除去食を教師用事務机においた。  
アレルギー児童の配膳も通常の児童と同じ順番であったため、通常の料理が提供された。

#### ○誤食の場合の注意点

誤食したとすぐわかる場合とそうでない場合があります。  
誤食したとすぐにわからない場合でも原因を追究するのは、緊急時対応の後です。  
まずは、児童生徒のアナフィラキシー症状に対して、適切な対応を取りましょう。  
誤食でなくても、新たな食品が原因となってアレルギー症状を起こす場合もあります。

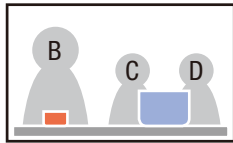
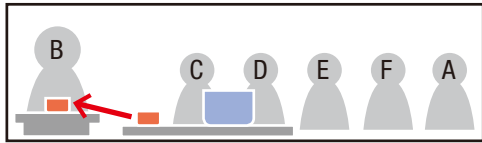
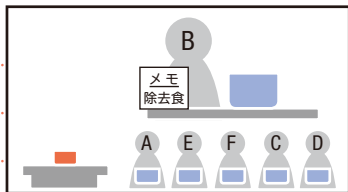
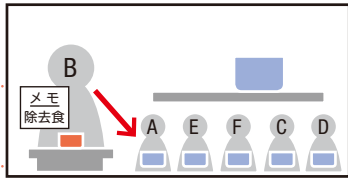
#### ○誤食と判明するのに時間がかかるケース

- ・詳細献立表の表記ミス
- ・加工食品の発注ミス
- ・除去食での除去漏れ

## 事故検証用台本

事故やヒヤリハットの後には、今後の事故防止のため、リスクを減らすための改善が必要となります。具体的に考え、教職員全体で共有するためには、シミュレーション研修はとても有効となります。事故事例ではどこに問題があるか話し合みましょう。ミスをした人を批判するのではなく、ミスが起きやすい環境やシステムになっていないか見直し、全教職員が事故防止のための行動がとれる体制づくりを学校全体で行うようにしましょう。

配役	A：アレルギー児童 E：友達1 I：校長	B：学級担任（準備係） F：友達2	C：給食当番1 G：学年主任	D：給食当番2 H：養護教諭（観察係）
----	----------------------------	----------------------	-------------------	------------------------

ナレーション	12:10 とある小学校の6年生の教室です。 4限の授業が終わり、給食の準備が始まっています。 担任の先生はいつも大忙し。 保護者懇談の希望日の集計をしています。	
学級担任 B	「さあ、すばやく給食の準備してくださいね。」 (何気なく、お椀を教師机に置き、 書類のチェックを始める)	
給食当番 C	「Dさんおかずの盛りつけしてくれる？ おねがい。」	
給食当番 D	「いいよ〜。」(もりつける作業をはじめる)	
給食当番 C	「じゃあ、私はスープね。」	
友達 E	「おなかすいた〜。はやく用意しよう。」(お盆をもってCとDから皿と椀をもらい座る) (お盆をもって並びながら)「Aさん、Fさん、来週の縦割り遊び、何するの？」	
児童 A	「私たちのグループはハンカチ落としと鬼ごっこだよ。」	
友達 F	「私たちはけいどろ(警察&泥ボー)。先生、はやくいただきますしよ〜。」	
学級担任 B	「あら、もう12:30。」(書類を整理する) (教師の机に給食を置く)	
給食当番 CD	(自分の給食をもって座る)	
学級担任 B	「じゃあ当番、あいさつをお願いします。」	
給食当番 C	「いただきます。」	
児童全員	「いただきます。」(もぐもぐ食べる)	
学級担任 B	(食器カゴを整理し、食器カゴの中から除去食のメモを見つける) 「あら？」(机の上のお椀をみる) (机に近寄り、お椀を持ち) 「Aさん、おかず食べた？」(Aのそばに行く)	
児童 A	「はい。食べました。そういえば、なんだか、 のどがおかしいかも。ん、ん。」	
学級担任 B	「今日、魚のケチャップからめで除去食が届いていたわ。 ごめんね。体、大丈夫？」	
友達 E	「なんか、口の周り赤いよ。」	
学級担任 B	「本当だ。今日は給食止めときましょう。 ちょっと、保健室に行ったほうがいいかもしれないわね。行ける？ じゃあ、Eさん保健室に連れて行ってあげて。」	

友達E	「はい。Aさん、一緒に行こう。大丈夫？行ける？」
児童A	「うん。」
<b>12:40 保健室</b>	
友達E	「H先生、Aさんだけど、給食で魚を食べちゃいました。みてください。」
養護教諭H	「Aさん、今日は除去食の予定だったはずだったのに、ちゃんと届かなかったのね。どこか、変わったところはある。」
児童A	「口のまわりと腕がかゆいんです。のどもいがいがします。」
養護教諭H	「Aさん薬、持っていたわよね。」(体温計を渡し、パルスオキシメーターを指にはめる)
児童A	「はい。持ってきました。ランドセルにあります。」
養護教諭H	「じゃあ、薬を飲みましょう。Eさん、悪いけれど教室に行って、Aさんのランドセルを持ってきてもらえるようB先生に伝えてもらえるかしら。」
友達E	「はい。わかりました。」
<b>12:45 6年教室</b>	
友達E	(友達Eより伝言を聞き、学級担任Bは隣のクラスにいる学年主任Gに教室を離れることを連絡し、Aのランドセルを持って保健室に向かう)
<b>12:45 保健室</b>	
養護教諭H	(血圧を測りバイタルを記録する105/62mmHg 熱は36.1℃ 脈88回/分 SpO <sub>2</sub> 99%) 職員室に連絡するわね。(職員室に内線電話で状況を報告し、校長に来てもらう)
<b>12:50 保健室 学級担任B、校長Iが保健室に来室する</b>	
学級担任B	「Aさん、ランドセル持ってきたよ。これでいいかな。」
児童A	(腕をかく)「はい。内ポケットに入っています。」
養護教諭H	(水をコップに注ぎ、差し出す)「どうぞ。」(服薬を確認し)「しばらく横になって休みましょう。B先生、おうちの方に連絡していただけますか。」
学級担任B	「わかりました。」
養護教諭H	「校長先生、今から昼休みになり、たくさん子供が来るかもしれないので、応援の先生をお願いします。」
校長I	「そうですね。H先生はAさんをしっかり見てあげてください。B先生、今日の状況を詳しく教えてください。」

— その後症状は落ち着き、1時間休養後、おうちの人が迎えに来てくれる。—

## ○管理職・養護教諭が不在の場合の緊急時対応の留意点

### 管理職が不在の場合

管理職が不在の際の指揮系統について、予め確認しておく必要があります。

わざわざ連絡をとって判断するのではなく、緊急を要する場合は、リーダー代理が迅速に判断する必要があります。特に小規模の学校などでは、誰もがリーダーの役割もできるような研修が必要となるでしょう。

例) 校長先生不在時 副校長(教頭、主幹 保健主事 学年主任)が責任者など

### 養護教諭が不在の場合

養護教諭が不在の際の、体調不良者の対応について予め決めておく必要があります。

とっさの時に、誰も対応する人がいないとなつては、迅速な対応はできません。また、具合の悪い児童生徒を一人で寝かせておくという大変危険です。必ず、教職員が付き添い、安全を見守る必要があります。

## 誤食を未然防止するための確認体制

配役	A：アレルギー児童 E：友達1 I：校長	B：学級担任 F：友達2	C：給食当番1 G：学年主任	D：給食当番2 H：養護教諭
----	----------------------------	-----------------	-------------------	-------------------

## 職員室 朝の打合せ

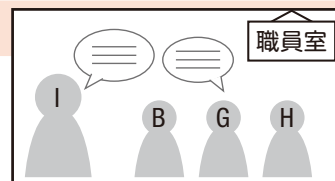
学年主任 G 「では、今日の献立の確認をお願いします。」

学級担任 B (献立表をみながら)  
「今日は『魚のケチャップからめ』があります。」

養護教諭 H 「Aさんが魚アレルギーなので『魚のケチャップからめ』が除去食になります。」

学年主任 G 「では、今日は教頭先生が出張なので、巡視を校長先生をお願いしておきます。  
(校長先生のところに行き)校長先生、今日の給食時間ですが、  
6年2組の除去食確認をお願いします。」

校長 I 「6年2組のAさんですね。わかりました。」



## 6年2組教室 給食の時間

学級担任 B 「さあ、すばやく給食の準備してくださいね。  
Aさん献立確認をしましょう。」

児童 A (先生のところに行きながら)「はい。」

学級担任 B 「今日のメニューはミルクロール、魚のケチャップからめ、冬瓜スープ、  
ケチャップからめが除去食ですね。じゃあ、一番に配膳してね。」  
(給食準備の様子を観察する)

給食当番 CD (給食準備をしている)A(お盆をもって配膳する)

給食当番 C 「Aさん除去食あるよ。」

児童 A 「ありがとう。」

友達 E (お盆をもってCとDから皿と椀をもらい座る)

友達 F (お盆をもってCとDから皿と椀をもらい座る 給食当番 CDも座る)

友達 F 「先生、はやくいただきますしよ〜。」

校長 I 「みんな給食の準備きちんとできているね。  
Aさんの除去食確認に来ましたよ。」

学級担任 B 「お願いします。」(献立表を取り出す)

校長 I 「今日は、ケチャップからめが除去食ですね。  
ちゃんと届いていますか?」

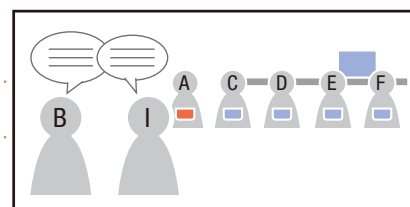
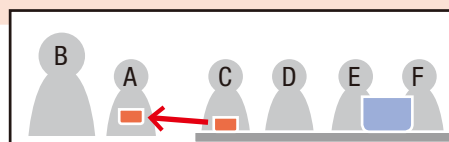
児童 A 「はい。届いています。」

学級担任 B 「届いてます。校長先生ありがとうございました。」

校長 I 「他は大丈夫ですね。じゃあ、みんなよく噛んで食べてください。」

給食当番 D 「いただきます。」

児童全員 「いただきます。」(もぐもぐ食べる)



## 誤食(エピペン<sup>®</sup>を持っている場合)

### 想定 4

#### シミュレーション研修プラン

1 テーマ	誤食によるアナフィラキシーの対応 エピペン <sup>®</sup> 注射
2 対象	全教職員(1グループ10人)
3 場面設定	給食時間
4 シミュレーション時間	20分/回
5 ふりかえり時間	20分
6 研修場所	保健室
7 目標	①アナフィラキシー時の対応について理解する。 ②エピペン <sup>®</sup> の使用方法を習得する。
8 対象児童の情報	氏名:児童A 性別:女子 学年:小学校4年 アレルギー:乳・卵アレルギーにてレベル4(代替食)対応 保健調査:アトピー性皮膚炎、花粉症あり

#### 9 シミュレーション研修の設定

- 12:30 給食センターでハンバーグ(乳・卵ぬぎ)を発注したつもりで提供した。
- 12:40 本人がハンバーグを半分食べた後、舌とのどにかゆみを感じた。  
担任は本人にうがいをさせ、保健室に連れて行った。
- 12:45 保健室にて安静にして経過を観察する。  
舌とのどのかゆみ 血圧109/68mmHg 脈70回/分 SpO<sub>2</sub> 98%
- 12:55 のどの違和感、腹痛を訴える。血圧103/60mmHg 脈82回/分 SpO<sub>2</sub> 97%  
管理職に報告する。
- 13:00 腹痛を訴え、咳が出始める。血圧95/58mmHg 脈103回/分 SpO<sub>2</sub> 95%
- 13:05 保護者及び主治医に連絡、エピペン<sup>®</sup>を打つよう指示を受ける。
- 13:10 腹痛・咳が悪化する。  
救急車を要請。管理職がエピペン<sup>®</sup>を打つ。
- 13:12 症状改善。保護者来校。
- 13:22 救急車到着。



## ◆台本

配役	A：アレルギー児童	B：学級担任(観察)	C：養護教諭(準備係)	D：学年主任(連絡係)
	E：校長(リーダー)	F：教員(記録係)	G：教員(子ども対応係)	H：教員(AED準備)
	I：保護者	J：消防		

## 12:15 4年生教室 配膳準備前

学級担任B (児童Aに向かって)「Aさん、今日のメニューは、ごはん、ハンバーグ、キャベツのソテー、わかめスープです。ハンバーグはアレルゲンフリーだそうです。みんなと同じ給食で大丈夫ですね。」

アレルギー児童A 「はい、もりつけ表にも○が付いています。」  
(一番に配膳をし、座席につく)

## 12:30

給食当番 「手を合わせましょう。いただきます。」  
(みんな、食べ始める)

## 12:40

児童A (手を挙げ)「先生、なんかベロとのどがヘンな感じがします。」

学級担任B 「どうしたのかしら。今日のハンバーグは乳、卵ぬきって書いてあるけど。」  
「うがいしてきましょう。」  
「みんな、静かに給食を食べていてください。今、教頭先生に来てもらいますね。」  
「Aさん、保健室行きましょう。給食どのくらい食べた？」

児童A 「ごはんとハンバーグを、半分くらい、スープは少しだけ、キャベツは食べてません。」

## 12:45 保健室

学級担任B 「C先生、Aさんが給食半分ほど食べたあと、口の中とのどがおかしいようです。うがいはさせたんですが、見ていただけますか？」  
「内線電話をお借りします。」(職員室に連絡し、教室と保健室に応援を要請する)

養護教諭C 「Aさん、大丈夫？どんなふうにおかしいの？」「熱も測りましょうね。」  
(体温計を渡し、パルスオキシメーターを指にはさむ)

児童A 「なんか、ベロとのどがムズムズしてヘンな感じがします。」

養護教諭C 「熱は36.4℃、脈も70回/分、SpO<sub>2</sub> 98%普通だね。血圧も測りましょう。」  
「血圧109/68mmHg すこし横になりましょう。」

## 12:50 校長E、学年主任D、教員Fが保健室にやってくる。

校長E 「B先生C先生、Aさん大丈夫ですか。今、G先生に教室に行ってもらいました。」

学級担任B 「給食で、ごはんとハンバーグを食べたあと、口とのどに違和感が出たようです。今日はアレルゲンフリー給食なので、アレルゲンは入ってないはずなのですが…。」

校長E 「そうですね。D先生、給食センターに連絡して、今日の給食にAさんの原因食物の卵か乳が入っていなかったか問い合わせてください。」  
「F先生、記録をお願いします。」

教員F 「はい、わかりました。」(これまでの様子をBより聞き取り、記録する)

学年主任D 「内線電話をお借りします。」(給食センターに電話する)  
「校長先生、事情を連絡しました。調べて連絡をくれるそうです。」

## 12:55

児童A (おなかをさする)

養護教諭C (血圧計を作動させながら)「Aさん、どうしたの？」

児童A 「ちょっとおなかが痛くなってきた。」

養護教諭C 「血圧103/60mmHg 脈82回/分 SpO<sub>2</sub> 97%」  
「校長先生、先ほどより、悪くなっています。」

教員F	(記録をとる)
校長E	「C先生、念のためエピペン®とAEDの準備をしてください。」
養護教諭C	「わかりました。」(職員室に連絡し、H先生にAEDを持ってこよう依頼する)
校長E	「B先生、おうちの方と主治医に連絡してください。」
学級担任B	「はい。」(すぐに保護者と主治医に連絡をとる)
<b>13:00 教員Hが保健室にやってくる。</b>	
児童A	(おなかを抱え丸くなっている。コホン、コホン、咳が出始める)
養護教諭C	「血压95/58mmHg 脈103回/分 SpO <sub>2</sub> 95%」(記録をとる)
教員H	(AEDを持って保健室を訪れる)「AEDを持って来ました」
<b>13:05</b>	
学級担任B	「校長先生、おうちの人からエピペン®を打ってほしいと依頼がありました。おうちの方もすぐ学校に来てくださるそうです。」
校長E	「D先生、救急車の手配をお願いします。」
学年主任D	「はい、わかりました。」(119番通報、職員室に連絡し、I先生に誘導を依頼する)
児童A	(ゴホ、ゴホ、ゴホン、咳がひどくなる)「う～、う～、おなかが、痛い、う～。」
校長E	「Aさん、おうちの人に連絡したよ。エピペン®を打ったら楽になるだろうって。エピペン®を注射しよう。自分でできるかな。」
児童A	(首を横に振る)
校長E	「ひどそうだね。先生がしよう。」
<b>13:10</b>	
校長E	「では、私が打ちます。C先生、介助をお願いします。」
学級担任B	「Aさんふとももおさえるね。」
養護教諭C	「ケースから取り出し、グーでにぎってください。」
校長E	(エピペン®をケースから取り出しグーで持つ)「グーでにぎりました。」
養護教諭C	「安全キャップを外します。」(校長E繰り返し言いながら操作する)
養護教諭C	「太ももに当てます。音がするまで強く押しつけます。」 (校長E繰り返し言いながら操作する)
校長E	「Aさんチクつとするよ。」
養護教諭C	「5つ数えます。1・2・3・4・5。エピペン®をゆっくり持ち上げます。注射部位をもみます。」
教員F	(エピペン®を打った時刻を記録する)
<b>13:12</b>	
児童A	(症状が改善する)血压105/66mmHg 脈120回/分 SpO <sub>2</sub> 98%
保護者	(保健室に到着する)「A、大丈夫?お世話になりありがとうございました。」
学級担任B	「Aさんおうちの方がみえたよ。よかったね。」
校長E	「ご来校いただきありがとうございます。 ご心配をおかけすることになり申し訳ありません。 給食を半分食べたあとから、口とのどに違和感が出まして、そのあとすぐに保健室で様子を見ていたのですが、腹痛と咳が出まして、さきほど私がエピペン®を打ったところです。 原因については、給食センターで確認しているところです。 主治医の先生にも連絡しまして、受け入れ可能と聞いています。 まもなく、救急車が到着すると思います。」
保護者I	「わかりました。大事にいたらなくてよかったです。」
消防J	「救急隊です。お子さんの様子を教えてください。」

## 家庭科調理実習中のアナフィラキシー対応

想定  
5

## シミュレーション研修プラン

1 テーマ	調理実習、喫食によるアナフィラキシーの対応(教科担任) エピペン®注射
2 対象	全教職員(1グループ9人)
3 場面設定	調理実習
4 シミュレーション時間	20分/回
5 ふりかえり時間	20分
6 研修場所	調理室
7 目標	①アナフィラキシー時の対応について理解する。 ②エピペン®の使用方法を習得する。
8 対象生徒の情報	氏名:生徒A 性別:女子 学年:高等学校1年 アレルギー:乳・卵アレルギー 保健調査:アトピー性皮膚炎、気管支ぜん息あり

## 9 シミュレーション研修の設定

卵・乳アレルギーで詳細献立対応の生徒である。  
家庭科で親子丼を調理した。生卵にはアレルギーがあるため、  
卵に触らないことを事前に確認していた。  
親子丼を食べる際は、火が通っていることを確認し、量を少なめにして食べた。  
食後、のどのかゆみを訴えた。

## ◆台本

配役	A：アレルギー生徒 E：学級担任（連絡係） I：消防	B：友達 F：校長	C：家庭担当（観察係） G：記録係	D：養護教諭（準備係） H：AED準備係
----	----------------------------------	--------------	----------------------	-------------------------

予め、卵に触れないこと、加熱を十分し、半熟状態の卵は食べないことを保護者、担任、家庭担当で確認していた。

## 11:30 調理実習室 調理開始

生徒A	「私、卵に触れないから、Bさん、卵割ってくれる。」
友達B	「いいよ。」 「鍋に溶き卵入れたら完成だね。Aさん、しっかり火を通さないとダメだったね。」
家庭担当C	「どうかな。しっかり火を通しましたか。」
生徒A	「卵が固まっているから大丈夫だと思います。私は量も少なめにしておきます。」

## 12:15

家庭担当C	「では、全グループの盛り付けが終わったみたいなので、いただきます。」
友達B	「いただきます。」

## 12:30 大半の生徒が食べ終わり、食器の片づけを開始した。

生徒A	「なんか、のどがムズムズしてきた。薬を飲もうかな。」
友達B	「大丈夫？先生に報告してくるね。」
家庭担当C	「Aさん、のどがおかしいの？」
生徒A	「はい。ちょっと気分も悪くなってきました。薬は飲んだのですが…。」
家庭担当C	「Bさん、職員室に行って、担任のD先生にAさんのアレルギー症状が出たことを伝えてきてくれる。Aさん、一緒に保健室に行きましょう。」
生徒A	「先生、気分が悪いのでトイレに寄ってもいいですか？」

## 12:35

家庭担当C	（トイレから出てきたAに）「どう？大丈夫？」
生徒A	「何も出ませんでした。吐いたら楽になると思ったんですけど。」
家庭担当C	「まあ、保健室に行きましょう。」

## 12:40 保健室

家庭担当C	「D先生、Aさんですけど、加熱卵黄は大丈夫ということで、調理実習で親子丼を作って、小盛で食べたら、気分が悪くなってしまいました。お願いします。職員室には、生徒に連絡に行ってもらっています。」
養護教諭D	「Aさん、顔色が随分悪いわね。横になりましょう。血圧測りましょう。（指にパルスオキシメータをはめ、血圧を測る）93/58mmHg 脈 122回/分 SpO <sub>2</sub> 97% すぐに病院に行った方がいいわね。」
生徒A	「先生、気持ちが悪い。」（嘔吐する）

## 12:45 管理職F、学級担任E、教員G・Hも保健室に来室する。

養護教諭D	「校長先生、E先生、Aさんですけど、親子丼を食べたことによるアナフィラキシーです。薬は飲んだそうですが、いま、嘔吐しました。血圧も低くなっています。すぐ、救急車を要請した方がよいと思います。」
校長F	「では、E先生、すぐ、119番通報と保護者連絡をお願いします。」
学級担任E	「わかりました。」（保健室の固定電話より119番通報をする）
校長F	「G先生記録をおねがいします。H先生は念のため、AEDを準備してください。」
教員G	「はい。」（記録用紙を取り出し家庭担当Cに確認をとりながら記録を始める）
教員H	「はい。」（AEDの準備に向かう）

校長 F	「Aさんはエピペン <sup>®</sup> も持っていましたね。」
養護教諭 D	「そうですね。Aさんポーチ持ってきていたわよね。すぐ準備します。」
<b>12:50 119番通報</b>	
消防 I	「119番、火事ですか。救急ですか。」
学級担任 E	「救急です。」
消防 I	「住所はどこですか。」
学級担任 E	「〇〇市〇〇町〇丁目〇番地 □□高校です。」
消防 I	「どうしましたか。」
学級担任 E	「高校1年生の女子生徒が調理実習で親子丼を食べ、アナフィラキシーを起こしました。」
消防 I	「あなたの名前と連絡先を教えてください。」
学級担任 E	「私の名前は□△〇×です。電話番号は……です。」
消防 I	「すぐ、救急車が向います。6分ほどで到着します。校門の方で誘導をお願いします。」
学級担任 E	「はい。」
消防 I	「患者さんの様子を詳しく教えてください。」
学級担任 E	(G先生の記録を見ながら)「卵アレルギーがあります加熱卵は大丈夫とのことで12:15に親子丼を食べました。そのあと、気分が悪くなり保健室に来ています。12:40 血圧93/58mmHg 脈 122回/分 SpO <sub>2</sub> 97%嘔吐しています。今からエピペン <sup>®</sup> を打つところです。」
消防 I	「嘔吐の他に症状はありますか。」
学級担任 E	「ないです。呼吸症状、皮膚症状ありません。」
消防 I	「電話はこのまま切らずに、様子が変われば知らせてください。」
学級担任 E	「校長先生、消防に連絡しました。6分ほどで着くそうです。この電話は消防とつながっています。状況が変われば、報告してほしいそうです。スピーカーにしております。私は携帯電話から保護者に連絡します。」
<b>12:55</b>	
校長 F	「では、D先生エピペン <sup>®</sup> をお願いします。C先生介助をお願いします。Aさんふとももおさえるね。」
家庭担当 C	「ケースから取り出し、グーでにぎってください。」
養護教諭 D	(エピペン <sup>®</sup> をケースから取り出しグーで持つ)「グーでにぎりました。」
家庭担当 C	「安全キャップを外します。」(養護教諭D繰り返し言いながら操作する) 「太ももに当てます。音がするまで強く押しつけます。」 (養護教諭D繰り返し言いながら操作する)
養護教諭 D	「Aさんチクつとするよ。」
家庭担当 C	「5つ数えます。1・2・3・4・5。エピペン <sup>®</sup> をゆっくり持ち上げます。注射部位をもみます。」
教員 G	(エピペン <sup>®</sup> を打った時刻を記録する)
<b>12:57 生徒Aの症状が改善する</b>	
学級担任 E	「保護者と連絡がとれました。搬送先の病院が決まったら、連絡してほしいとのことです。Aさん、おうちの方も病院に来てくれるって、先生たちと一緒に病院に行こうね。」
消防 I	「救急隊です。状況を教えてください。」

## ○調理の際の注意事項

原因食物を扱う授業の際は、家庭で使用する量とは異なり、その場に大量の原因食物を使用します。

離れて見ている場合でも、アナフィラキシーが誘発される可能性があることを十分念頭に置き、保護者や本人と活動内容を決定しましょう。

また、換気を十分行いながら実施するなど、最大限の配慮を行きましょう。



想定  
6

シミュレーション研修プラン

1 テーマ	部活動中の食物依存性運動誘発アナフィラキシーの対応 エピペン®注射
2 対象	部活動顧問等
3 場面設定	部活動
4 シミュレーション時間	20分/回
5 ふりかえり時間	20分
6 研修場所	体育館
7 目標	①アナフィラキシー時の対応について理解する。 ②エピペン®の使用方法を習得する。
8 対象生徒の情報	氏名:生徒A 性別:男子 学年:中学校1年 アレルギー:エビアレルギーにてレベル2(弁当)対応 保健調査:気管支ぜん息あり

9 シミュレーション研修の設定

エビアレルギーによる食物依存性運動誘発アナフィラキシーの生徒である。

エピペン®、内服薬を持参している。

15:20 部活動開始 準備体操

15:30 体育館ランニングの3周目より、咳が出始める。

15:40 顧問が本人より体調が悪いと報告を受ける。

脈112回/分 顔面紅潮

顧問が保健室に連れて行く。ベッドで休ませる。

15:45 咳込みがひどくなり、眼瞼腫脹、顔面のむくみが見られた。



## ◆台本

配役	A：アレルギー生徒 E：友達2 I：記録係	B：部活動顧問(観察係) F：学級担任(連絡係) J：AED準備	C：部活動の部長 G：学年主任(準備係) K：救急車誘導	D：友達1 H：教頭(リーダー) L：消防
----	-----------------------------	--	------------------------------------	-----------------------------

<b>15:20 体育館</b>	
部長C	「集合 気をつけ 礼 お願いします。」
顧問B	「お願いします。気を抜いて、けがをしないよう集中して取り組みましょう。」
部長C	「今日はAメニューでトレーニングをします。ストレッチ、ランニングのあと練習に入ります。」
<b>15:30</b>	
生徒A	「ファイトー、ファイト、ファイト、ファイトー、ファイト、ファイト、ゴホ、ゴホ、ファイトー、ファイト、ファイト、ゼー、ゼー、ゴホ…。ゴホン、ゴホン。」 (段々、ひどくなり咳込む)
部長C	「大丈夫か、無理するな。」
<b>15:40</b>	
生徒A	「ゼー、ゼー、ゴホ、ゴホ、失礼します。先生、ゴホ、咳が出るので、ゼー、ゼー、ン、保健室に行ってもいいですか。ゴホ、ゴホ、ゴホン。」
顧問B	「咳がひどいな。Aさんの担任は誰ですか。」
生徒A	「ン、ン、F、先生、です。ゴホ、ゴホン。」
顧問B	「C部長は保健室に、Dさんは職員室行ってAさんの具合が悪いから来てほしいと伝えて来てください。Aさん、薬とエピペン®どこにある。」(友達D 職員室に向かう)
生徒A	「ゼーゼー、オホ、オホ、部室に…。カバンの中…。」
顧問B	「部室か。Eさん、部室にあるAさんの鞆の場所わかるかな。持って来てください。Aさん横になるか。」
<b>15:45 学級担任F・学年主任Gが体育館に来る</b>	
顧問B	「F先生、Aさん、部活のランニング中に具合が悪くなりました。咳がひどいんです。アレルギーですかね。」
学級担任F	「今日の給食は、シーフードカレーだったわね。Aさん、小学校の時もエビで運動誘発アナフィラキシー起きたことあったよね。(脈を測る)脈112回/分です。運動していたからかな。」
生徒A	「今日はみんなと同じカレーを食べました。(ゼーゼー)今日の部活はきつくないメニューから大丈夫かと思って練習しました。軽くしか走ってないんですが…。」
部長C	「B先生、保健室、閉まっていました。」
学年主任G	「今日は、養護教諭の研修会で出張だったよ。」
友達E	「Aさんの鞆持って来ました。」
顧問B	「ありがとう。Aさん、この鞆か？薬どこかな。」(生徒Aに鞆を渡す)
生徒A	(ゼーゼー 頭を下げる)「ここです。」(鞆から薬を取り出す)
学年主任G	「お水どうぞ。」
<b>15:50</b>	
生徒A	(薬を飲もうとするが、咳込みがひどく飲むことができない) (顔が紅潮し、眼瞼腫脹、顔がむくんできている)
顧問B	「これでは、ひどくなる一方だ。G先生校長先生はいましたか。」
学年主任G	「職員室を出る時にはいなかったんですが、事務の先生には伝えてあるので、戻られれば、こちらに来てくれると思います。」
顧問B	「咳もひどいし、顔も腫れてきています。救急車を要請しましょう。F先生、119番通報と保護者への連絡をお願いします。」

学級担任F	「はい。わかりました。」(携帯を取り出す)
顧問B	「Cさん、職員室に行って応援の先生を呼んでください。」
<b>15:55</b>	
学級担任F	(119番通報する)
消防L	「119番、火事ですか。救急ですか。」
学級担任F	「救急です。」
消防L	「住所はどこですか。」
学級担任F	「〇〇市〇〇町〇丁目〇番地 □□中学校です。」
消防L	「どうしましたか。」
学級担任F	「中学校1年生の男子生徒が部活動中に運動誘発アナフィラキシーを起こしました。咳がひどく、眼と顔が腫れています。薬を飲もうとしているんですが、飲めません。すぐに来てください。」
消防L	「エピペン®の携帯はしていますか?」
学級担任F	「はい、しています。」
消防L	「呼吸が苦しいようなら、エピペン®を打ってください。」
学級担任F	「わかりました。」
消防L	「あなたの名前と連絡先を教えてください。」
学級担任F	「私の名前は□△○×です。電話番号は…です。」
消防L	「すぐ、救急車が向います。6分ほどで到着します。校門の方で誘導をお願いします。」
学級担任F	「はい。」
消防L	「電話はこのまま切らずに、状況を教えてください。」
<b>15:58 教頭H、教員I・J・Kがやってくる。</b>	
学級担任F	「救急車は6分ほどで到着するそうです。エピペン®を打つように言われました。教頭先生、Aさんが食物依存性運動誘発アナフィラキシーのようなので救急車を要請しました。」
教頭H	「記録は誰かしていますか。I先生お願いします。J先生念のため、AEDの用意をお願いします。K先生救急車の誘導をお願いします。」
学年主任G	「では、私が打ちます。B先生介助をお願いします。」
学級担任F	「Aさん太もおさえるね。」
顧問B	「ケースから取り出し、グーでにぎってください。(エピペン®をケースから取り出しグーで持つ)」
学年主任G	「グーでにぎりました。安全キャップを外します。(学年主任G繰り返し言いながら操作する)」
顧問B	「太ももに当てます。音がするまで強く押しつけます。(学年主任G繰り返し言いながら操作する)」
学年主任G	「Aさんチクつとするよ。」
顧問B	「5つ数えます。1・2・3・4・5。エピペン®をゆっくり持ち上げます。注射部位をもみます。」
教員I	(エピペン®を打った時刻を記録する)
<b>16:03 生徒Aの症状が改善する</b>	
消防L	「救急隊です。患者さんの様子を詳しく教えてください。」

### ○部活動の際の留意点

部活動時間は、教職員の配置も変則的となります。管理職や養護教諭が不在となる可能性も高くなります。

そのような時に、アナフィラキシーが起こったら、少ない人員でどこまで対応できるか、事前に考えておくことが重要です。

ある程度想定してシミュレーション研修を行っている、冷静に迅速に行動しなければならないことが理解できます。

## 宿泊行事

想定  
7

### シミュレーション研修プラン

1 テーマ	誤食によるアナフィラキシーの対応(宿泊行事) エピペン <sup>®</sup> 注射
2 対象	2年担当
3 場面設定	修学旅行
4 シミュレーション時間	20分/回
5 ふりかえり時間	20分
6 研修場所	会議室
7 目標	①アナフィラキシー時の対応について理解する。 ②エピペン <sup>®</sup> の使用方法を習得する。
8 対象生徒の情報	氏名:生徒A 性別:男子 学年:高等学校2年 アレルギー:エビ、カニ、イカ、タコアレルギー 内服薬、エピペン <sup>®</sup> あり

#### 9 シミュレーション研修の設定

- 7:00 ホテルの朝食バイキングで五目やしそばを食べた。  
エビとイカが入っており、少しくらいは食べても大丈夫と思い食べた。
- 7:30 バスにて観光地へ出発した。
- 7:35 バスの中でのどがイガイガし、気分が悪くなってきた。  
友達から担任に報告がある。  
担任から別のバスに乗っている養護教諭に連絡する。  
養護教諭から内服とエピペン<sup>®</sup>の準備の指示がある。
- 7:40 座席を副担任の横に移動させ、内服させると同時に管理職に報告する。  
管理職の指示で当該生徒と担任、養護教諭のバスはホテルに戻る。  
脈98回/分 咳が出始める。
- 7:50 ホテルに到着。救急車を要請する。
- 7:55 気分が悪いと言い、嘔吐する。
- 7:56 エピペン<sup>®</sup>を準備し、本人が打つ。



## 7:50 ホテルに到着し、生徒A、担任Cが降車する。ホーム担任CはAのリュックをもっている。

養護教諭F	(先に到着していた養護教諭Fと校長Eが出迎える) 「Aさん大丈夫?休養室に行きましょう。」
生徒A	「コホ、コホ、はい。先生、薬を飲んだのですが、まだ、気持ちが悪いんです。」
養護教諭F	「そう、(ビニール袋を差し出す)歩ける?校長先生、病院に行った方がいいかもしれません。」
校長E	「一旦、部屋に入って、病院に連絡してから向かいましょう。」
生徒A	(頷き、担任と歩き出す)

## 7:55 ホテルの部屋:休養室に到着する

養護教諭F	「ベッドに横になりましょう。」
生徒A	「やっぱり気持ち悪い。」(トイレに入り、嘔吐する)
養護教諭F	「口をゆすぐ?」
生徒A	(頷き、口をゆすぐ。部屋に移り、ベッドに横になる)
養護教諭F	「校長先生、エピペン®打って、救急車に来てもらった方がよさそうです。 血圧測りましょう。95/52mmHg 脈124回/分 SpO <sub>2</sub> 97%です。」
校長E	「そうですね。Aさん、自分でできるかな。」
生徒A	「はい。できると思います。」
校長E	「では、C先生介助をお願いします。 F先生は119番通報とホテルの人に連絡をお願いします。」
ホーム担任C	(Aのリュックよりエピペン®を取り出しAに渡す) 「Aさん太もも押さえるね。ケースから取り出し、グーでにぎってください。」 (生徒A:エピペン®をケースから取り出しグーで持つ)
生徒A	「グーでにぎりました。」
ホーム担任C	「安全キャップを外します。」
生徒A	(繰り返し言いながら操作する)
ホーム担任C	「太ももに当てます。音がするまで強く押しつけます。」
生徒A	(繰り返し言いながら操作する。エピペン®を打つ)
ホーム担任C	「5つ数えます。1・2・3・4・5。エピペン®をゆっくり持ち上げます。注射部位をもみます。」 (エピペン®を打った時刻を記録する)

(生徒Aの症状が改善する)

## 8:00

養護教諭F	(119番通報 予め受け入れ要請をしていた病院に連絡する) (ホテルの人に救急車に誘導を依頼する。保護者に経過を連絡する) (担任の記録に必要な情報を付け加える)
-------	---

## 8:10

消防G	「救急隊です。患者さんの様子を詳しく教えてください。」
-----	-----------------------------

## ○宿泊行事中の留意点

提供する食事は、原因食物が除かれているか確認を行きましょう。

バイキング形式の場合で、本人がしっかりしているから大丈夫と思う場合でも、旅行中は不注意になることもあるので、教職員で確認をしましょう。

万が一に備えて、受け入れ可能な病院を調べておいたり、緊急時に必要な主治医の指示書等を持参したりすると迅速な対応ができるでしょう。

また、緊急時にすばやく対応できるよう予め、役割分担を決めておくことが必要です。

エピペン®を携帯して飛行機に搭乗する際は、事前の申請が必要になります。



### 食物アレルギー緊急対応経過記録表

記載者名( )

1	ふりがな			性別	学年・組		
	児童生徒氏名			男・女	年 組		
2	発生日時	平成 年 月 日 ( )	時 分	発生場所			
3	食べたもの (皮膚につく、眼に入る等も含む)			量			
4	日常の対応 ※該当した項目の□にレをつける	<input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> レベル1(詳細な献立表) <input type="checkbox"/> レベル2(弁当) <input type="checkbox"/> レベル3(除去食) <input type="checkbox"/> レベル4(代替食)					
5	時 分	処 置	<input type="checkbox"/> □の中のものを取り除く <input type="checkbox"/> うがいをする <input type="checkbox"/> 手を洗う <input type="checkbox"/> 顔や目を洗う <input type="checkbox"/> その場で安静にさせる <input type="checkbox"/> 保健室に引率する <input type="checkbox"/> 保健室に搬送する				
	時 分	薬の使用	<input type="checkbox"/> 薬( )を内服・吸入・貼付				
	時 分		<input type="checkbox"/> 薬( )を内服・吸入・貼付				
	時 分	エピペン® <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり / <input type="checkbox"/> エピペン® 使用に備え取り出した / <input type="checkbox"/> 本人に持たせた <input type="checkbox"/> エピペン® 注射を実施 / 注射した人 <input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 本人以外(氏名 )					
	時 分	心肺蘇生	<input type="checkbox"/> 心肺蘇生を開始				
	時 分	AED装着	<input type="checkbox"/> AEDを装着				
6	時 分	保護者へ連絡	内容( )				
7	時 分	主治医へ連絡	内容( )				
8	時 分	救急車要請	時 分	救急車到着			
9	時 分	救急車発車	搬送先医療機関	( )			
確認された症状 該当症状に、出現○・消失×をつける							
10	時間	<b>太字は重症(緊急性が高い)を示す。一つでもあてはまればただちにエピペン®を使用する(迷ったらエピペン®を打つ)</b> その場で安静 反応がなく呼吸がなければ心肺蘇生!				その他特記事項	
		皮膚の症状	目口鼻顔面症状	消化器症状	呼吸器症状		全身状態
	時 分	・じんましん(数個、全身) ・発赤(一部、全身) ・かゆみ(軽い、強い)	・目(かゆみ・充血) ・まぶたの腫れ ・口腔内違和感 ・唇の腫れ ・くしゃみ、鼻水、鼻づまり ・のどのかゆみ	・腹痛(軽度、 <b>激しい</b> ) ・吐き気 ・嘔吐(1-2回、 <b>頻回</b> ) ・下痢(1-2回、 <b>頻回</b> )	・咳(軽い、 <b>頻回</b> ) ・ <b>のどや胸のしめつけ</b> ・ <b>声がかすれる</b> ・ <b>息が苦しい</b> ・ <b>犬が吠えるような咳</b> ・ <b>ゼーゼーする呼吸</b>		・やや元気がない ・ <b>ぐったり</b> ・ <b>意識もうろう</b> ・ <b>尿や便を漏らす</b> ・ <b>脈が触れにくい</b> ・ <b>唇や爪が青白い</b>
	時 分	・じんましん(数個、全身) ・発赤(一部、全身) ・かゆみ(軽い、強い)	・目(かゆみ・充血) ・まぶたの腫れ ・口腔内違和感 ・唇の腫れ ・くしゃみ、鼻水、鼻づまり ・のどのかゆみ	・腹痛(軽度、 <b>激しい</b> ) ・吐き気 ・嘔吐(1-2回、 <b>頻回</b> ) ・下痢(1-2回、 <b>頻回</b> )	・咳(軽い、 <b>頻回</b> ) ・ <b>のどや胸のしめつけ</b> ・ <b>声がかすれる</b> ・ <b>息が苦しい</b> ・ <b>犬が吠えるような咳</b> ・ <b>ゼーゼーする呼吸</b>		・やや元気がない ・ <b>ぐったり</b> ・ <b>意識もうろう</b> ・ <b>尿や便を漏らす</b> ・ <b>脈が触れにくい</b> ・ <b>唇や爪が青白い</b>
	時 分	・じんましん(数個、全身) ・発赤(一部、全身) ・かゆみ(軽い、強い)	・目(かゆみ・充血) ・まぶたの腫れ ・口腔内違和感 ・唇の腫れ ・くしゃみ、鼻水、鼻づまり ・のどのかゆみ	・腹痛(軽度、 <b>激しい</b> ) ・吐き気 ・嘔吐(1-2回、 <b>頻回</b> ) ・下痢(1-2回、 <b>頻回</b> )	・咳(軽い、 <b>頻回</b> ) ・ <b>のどや胸のしめつけ</b> ・ <b>声がかすれる</b> ・ <b>息が苦しい</b> ・ <b>犬が吠えるような咳</b> ・ <b>ゼーゼーする呼吸</b>		・やや元気がない ・ <b>ぐったり</b> ・ <b>意識もうろう</b> ・ <b>尿や便を漏らす</b> ・ <b>脈が触れにくい</b> ・ <b>唇や爪が青白い</b>
	時 分	・じんましん(数個、全身) ・発赤(一部、全身) ・かゆみ(軽い、強い)	・目(かゆみ・充血) ・まぶたの腫れ ・口腔内違和感 ・唇の腫れ ・くしゃみ、鼻水、鼻づまり ・のどのかゆみ	・腹痛(軽度、 <b>激しい</b> ) ・吐き気 ・嘔吐(1-2回、 <b>頻回</b> ) ・下痢(1-2回、 <b>頻回</b> )	・咳(軽い、 <b>頻回</b> ) ・ <b>のどや胸のしめつけ</b> ・ <b>声がかすれる</b> ・ <b>息が苦しい</b> ・ <b>犬が吠えるような咳</b> ・ <b>ゼーゼーする呼吸</b>		・やや元気がない ・ <b>ぐったり</b> ・ <b>意識もうろう</b> ・ <b>尿や便を漏らす</b> ・ <b>脈が触れにくい</b> ・ <b>唇や爪が青白い</b>
	時 分	・じんましん(数個、全身) ・発赤(一部、全身) ・かゆみ(軽い、強い)	・目(かゆみ・充血) ・まぶたの腫れ ・口腔内違和感 ・唇の腫れ ・くしゃみ、鼻水、鼻づまり ・のどのかゆみ	・腹痛(軽度、 <b>激しい</b> ) ・吐き気 ・嘔吐(1-2回、 <b>頻回</b> ) ・下痢(1-2回、 <b>頻回</b> )	・咳(軽い、 <b>頻回</b> ) ・ <b>のどや胸のしめつけ</b> ・ <b>声がかすれる</b> ・ <b>息が苦しい</b> ・ <b>犬が吠えるような咳</b> ・ <b>ゼーゼーする呼吸</b>		・やや元気がない ・ <b>ぐったり</b> ・ <b>意識もうろう</b> ・ <b>尿や便を漏らす</b> ・ <b>脈が触れにくい</b> ・ <b>唇や爪が青白い</b>



アレルギー 児童生徒	校長先生 「リーダー」
「友達」	先生 「観察」
先生 「連絡」	先生 「準備」
先生 「その他」	先生 「記録」
先生 「その他」	先生 「その他」

<p style="text-align: right;">校長先生 「リーダー」</p> <p>①それぞれの役割を決め指示する ②エピペン®の使用または介助 ③心肺蘇生・AED使用</p>	<p style="text-align: right;">アレルギー 児童生徒</p> <p>症状を記載する</p>
<p style="text-align: right;">「観察」</p> <p>①第一発見者「観察」 ②人を集める ③教職員ABに「準備」「連絡」依頼 ④内服・エピペン®の介助 ⑤心肺蘇生・AED使用</p>	<p style="text-align: right;">「友達」</p> <p>保健室に連絡に行く</p>
<p style="text-align: right;">先生 「準備」</p> <p>①マニュアル・エピペン®・内服薬の準備 ②AEDを依頼 ③内服・エピペン®の使用 ④心肺蘇生・AEDの使用</p>	<p style="text-align: right;">先生 「連絡」</p> <p>①救急車要請 ②管理者を呼ぶ ③保護者へ連絡 ④さらに人を集める</p>
<p style="text-align: right;">先生 「記録」</p> <p>①観察開始・時刻を記録 ②エピペン®を使用した時刻を記録 ③内服した時刻を記録 ④5分毎に症状・経過を観察記録</p>	<p style="text-align: right;">先生 「その他」</p> <p>①AEDを取りに行く ②エピペン®使用・蘇生・AED介助</p>
<p style="text-align: right;">先生 「その他」</p> <p>①他の子供への対応 ②救急車の誘導 ③エピペン®使用・蘇生・AED介助</p>	<p style="text-align: right;">先生 「その他」</p> <p>①他の子供への対応 ②エピペン®使用・蘇生・AED介助</p>

※学校での実状に応じ、変更し、緊急時に使用できるよう、必要箇所に設置します。

平成29年度 健康課題解決支援対策協議会委員  
(食物アレルギー対応校内研修事例集作成委員)

---

荒河真一郎	加賀市消防本部 警防課警防係 主査
石田仁志子	川北町立川北中学校 栄養教諭
上田愉美子	輪島市立東陽中学校 養護教諭
木山 佳子	白山市立千代野小学校 養護教諭
久保 実	石川県医師会 理事
沢田 良成	加賀市立東谷口小学校 校長
寺尾美弥子	七尾市立田鶴浜小学校 栄養教諭
中村 利美	金沢医科大学 小児科学助教
中山由佳里	小松市立松東中学校 養護教諭
松原 清美	小松教育事務所 指導主事
村田世里子	石川県薬剤師会 常務理事
○ 谷内江昭宏	金沢大学医薬保健研究域医学系 小児科主任教授
山口 幸江	加賀市教育委員会 主査

○委員長  
(敬称略、50音順)

文部科学省委託「学校保健総合支援事業」

学校における食物アレルギー校内研修事例集-石川県-

平成30年2月発行

発行 石川県教育委員会

